

六小・富士便り

開校55周年 国立市立国立第六小学校
校長室便りNo.14 令和7年(2025年)12月17日

2学期もあと1週間程度となりました。

先日は、令和7年度の文化的行事である、音楽会（校歌制定20周年記念）を無事に終えることができました。多くのご来場の皆様の前で、緊張した面持ちで、また、頑張ろうと気合の入った姿で、多くの子供たちが自分たちの力を発揮して、頑張り抜いた音楽会となりました。

各学年へのたくさんの温かい拍手、本校の顔として頑張っている5年生・6年生へのそれぞれの演奏へのアンコール、音楽が苦手な子どもや演奏や歌に挑戦した子供たちへの励ましなどなど、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様、そして、本校の教職員が送った子供たち一人一人の取組への励まし、本当に多くの皆様の支えに応えた子供たちの演奏は、とても心地よく、感動するものが多くありました。

また、校歌制定20周年の記念として送っていただいた「歌のおにいさん」のメッセージ動画も、多くの子供たちに驚きを与え、どよめきが起こりました。全ての保護者の皆様には、ご覧いただけませんでしたが、子供たちの思い出と六小の歴史の1ページに残ったことだと思います。歌のおにいさんには、今回の六小と繋がった縁を基に、また何かの折にご協力をいただけるよう働きかけていきたいと思います。

最後になりましたが、保護者ボランティアの皆様、様々にご協力をいただきました皆様に、この場にて、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

これからも、様々な教育活動において、多くの皆様のお力を貸しください。何卒、よろしくお願ひいたします。

第4回学校運営協議会を行いました。

12月6日(土)音楽会の保護者鑑賞日の午後、今年度4回目の学校運営協議会を行いました。音楽会をご覧いただいた方も多く、子どもの頑張りの姿や取組の様子を知っていただいた後でしたので、感想等をお伺いする機会ともなりました。

今回の運営協議会では、来年度の学校の目指す方向性をお知らせする機会もあり、私の作成した学校経営方針の図案を基に、目指す方向性を話させていただきました。ここで、簡単ではあります、内容をお知らせいたします。

【来年度の教育目標】

○よく考える子(知育)　◎なかよく助け合う子(德育)　○元気でたくましい子(体育)

これまでの教育目標を継続するとともに、令和8年度においても、◎なかよく助け合う子を重点目標といたします。特に高学年の姿に、下学年を大切にする姿が多く見られてきていること、学校生活の様々な場面で、相手を大切にしていく姿が見られてきていること等、学校を引っ張っていく5年生・6年生の姿を中心に、更に高みを目指すことができることが共有できましたので、来年度も「なかよく助け合う子」を重点目標として、継続いたします。

【教育活動スローガン】

学校がどの子どもにも「その子らしく」いられる居場所となり、家庭・地域・学校が教育活動を協働し、推進する学校を目指す。

学校運営協議会を設置したことによりコミュニティ・スクールとなった六小として、学校運営協議会2年目として、上記のように目指すスローガンを設定いたしました。

【目指す児童像】

よく考える子	⇒ 学習や生活の中で共同して、よく考える子 手立てとして、「基礎的・基本的な知識・技能の定着と習熟」
なかよく助け合う子	⇒ 友達となかよくし、誰とでも助け合う子 手立てとして、「集団生活の中で相手を意識した思いやりの獲得」
元気でたくましい子	⇒ 心も体も粘り強く、何事にも取り組める子 手立てとして、「前向きな学校生活による自己肯定感の向上」

以上の内容が大枠となります。

詳細については、来年の2月頃に行います、第5回学校運営協議会において委員の皆様の承認をもって、最終決定となりますので、その後、保護者の皆様には、改めてお伝えしたいと思います。

これまでの取組へのご理解とご協力への御礼

今年度、七小から六小に異動してまいりましたが、保護者の皆様や地域の皆様からは、たくさんの励ましや温かいお言葉を頂きました。子供たちからも、七小の友達との繋がり等を通して、私のことを聞き、積極的に関わってくる子供たちもいて、本当に有難い思いです。

皆様のご理解やご協力に対して、できる限り正対してきたつもりでおりますが、どこまでお応えできたかは分かっておりません。既にご容赦いただいているところもあるかとは思いますが、来年度に向けて、改めて力を注いでまいりたいと思います。学校との協働やご相談事等がありましたら、遠慮なく校長室までお越しください。お話を伺い、一緒に考えてまいりたいと思います。これからもよろしくお願ひいたします。



【校長のつぶやき】

小さい時の夢はと聞かれたら、天文学者と答えます。和歌山の田舎は、今もそうですが、家々の周りには田畠が多くあり、特に私の生まれた地域は、紀伊山地と和泉山脈の間に流れる、紀ノ川の河岸段丘の場所にあり、粉河寺（こかわでら）と呼ばれる寺のある門前町でした。夜になると、明かりは少なく、天気の良い時には、たくさんの星々が綺麗に見えたことをよく覚えています。また、小学生の頃に、アポロ11号が人類初の月面探査を行い、人が月に行くということに驚きとワクワク感がありました。そのこともあってか、理科に興味をもち、小学生のクラブは、理科クラブで実験をたくさんしたり、自由研究に頑張ったりして、未知の物に対して、とても憧れています。



今もその気質は変わっていないようで、最近は、宇宙の誕生についてや目に見えない事象のこと、日本を含めた考古学的な内容など、未知のものに対して知りたいという思いに駆られます。何かを知りたいという今の気質は、小さい頃の日常生活から育てられたのかもしれません。